

花と緑の銀行だより

188号 2013.7



【新町制60周年記念花壇】

・この花壇は、花と緑の銀行本店からの「地域の花づくり推進事業」と、上市町からの主催及び花と緑の銀行園芸・グリーンキーパーの協力という3つの柱で、既存の老朽化した研修花壇を「新町制60周年記念花壇」としてより町民の管理に置かれる花壇へとリニューアル致しました。

・花壇の完成により、他の地域の花づくりの活性化や、より多くの人々の花と緑の町づくりへの参加、交流に繋がればと願っています。これからも「元気に楽しく花と緑の銀行上市支店」として、上市支店の園芸・グリーンキーパーで頑張っています。

花と緑の銀行上市支店

「新町制60周年記念花壇」(上市支店)

目次

- ・花と緑の提言〈「新町制60周年記念花壇」完成(上市支店)〉…………… 2
- ・活動事例〈眼には花 心にはいつも安らぎを(朝日支店)〉…………… 3
- ・技術講座〈始めよう楽しい花壇作り2〉…………… 4
- ・技術講座〈富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⑭〉…………… 5
- ・緑づくりコーナー〈庭木に利用する樹種の特徴と管理—ナツツバキ—〉…………… 6
- ・情報コーナー〈第23回森と花の祭典『みどりの感謝祭』に参加して〉…………… 7
- ・この人あり〈花と限りない仲間たち(小矢部支店)〉…………… 7



「新町制60周年記念花壇」完成

花と緑の銀行 上市支店

宮川地方銀行 頭取 **松井啓子**

平成25年5月末、花と緑の銀行上市支店では、花と緑の銀行本店からの「地域の花づくり推進事業」と上市町からの支援及び花と緑の銀行頭取・グリーンキーパーの協力という3つの柱で、既存の老朽化した研修花壇を「新町制60周年記念花壇」として、より町民の皆様へ愛される花壇へとリニューアル完成致しました。

この花壇の立地場所は、「劔岳」への登山口「大岩山日石寺」、上市町出身の細田監督のアニメ映画「おおかみこどもの雨と雪」の舞台となった浅生の古民家、森林セラピー基地に認定された「眼日山立山寺」、「穴の谷霊場」「丸山総合運動公園」などの観光スポットへと結ぶスーパー農道交差点（北島交差点）傍に位置するため、ここを通る町内外の人々の目に留まりやすいということで、私たち頭取・グリーンキーパーは【お出迎え、おもてなしの心が伝わる花壇をつくらう！】と中央に上市町のシンボルマークを型取った芝生花壇、手前には4つの長方形花壇をボーダー風に配して、頭取・グリーンキーパー会議でデザイン、植栽を決め完成しました。



6月3日完成したばかりの花壇に堆肥、腐葉土、元肥を入れ土づくりを実施。6月12日には夏のような暑さの中、事前のデザインで花苗を植え付け。花がいっぱいに咲き揃う光景を想像しながら、会話も弾み、いい汗を流し作業を終了しました。今後は晩

秋に花の終わる頃までの作業（水やり、草むしり、花がら摘み、摘心、切り戻し、追肥）を研修を兼ねて楽しみながら全員で行うことを確認しました。

今年度は、主に一年草を中心に（一部宿根草）初夏～晩秋花壇として作りましたが、次年度からは3年後～5年後を考え、維持管理のしやすい周りの風景に馴染む自然な花壇へ。また、環境に配慮し（農薬や化学肥料を使わない）、季節や天候の変化にも強い（高温・多湿・強風・寒さ・乾燥など）上市の風土に合った宿根草・低花木・球根類・手づくりの苗などを積極的に利用します。できるだけコストのかからない年間を通して四季折々季節感のある花壇、多くの皆様楽しく、愛される花壇を目指し全員でお世話していきます。



この花壇の完成により、他の地域の花づくりの活性化や、より多くの人々の花と緑の町づくりへの参加や交流に繋がればと願っています。また、これらの活動は、花と緑の銀行本店、支店からの技術指導など、色々な情報提供や支援・助成、頭取・グリーンキーパーの協力の基に成り立つものであります。花と緑の県づくり、町づくりに発展していくものであると改めて思いました。今回の活動で、これからも【元気に輝く花と緑の銀行上市支店】として、上市支店の頭取・グリーンキーパーの皆様と（公募で迎えた新人グリーンキーパー8名と共に）楽しく活動していけたらと願っています。



眼には花 心にはいつも安らぎを

花と緑の銀行 朝日支店

泊二区地方銀行 頭取 中山 昇

花と緑の銀行朝日支店は、10の地方銀行で構成されています。私が所属する泊二区は朝日町最大の自治振興会で、過去にはお店が立ち並ぶ繁華街でもあり、公的施設も集中している朝日町の中心地でした。泊地区は一区、二区、三区から成り立っており、各地方銀行の個別作業の他にJR泊駅やあさひ総合病院の花壇、地元小学校の雪囲い、ボランティア団体と共に行う特別養護老人ホームの除草等を泊地区合同の活動として各区の頭取とグリーンキーパーの13名で行っています。

あさひ総合病院の花壇は、これまで、花と緑の銀行が主となり、維持管理を行ってきました。

しかしながら、一昨年あさひ総合病院に古くからあった銅像を病院の窓からよく見える駐車場の位置に移設の際、像を中心に直径5メートルの花壇が造成されました。すでに花と緑の銀行では病院敷地内で3箇所の花壇の管理を行っていたことから、町役場と病院側担当者として話し合い、約50名の登録されている病院ボランティアさんの協力と専任のグリー

ンキーパー1名を配置し、昨年から新たに取り掛かりました。花壇の中心部分の像の周りは、前もって構想としていた病院花壇から株分けしたギボウシと4色の芝桜を配置。他の空間は土がまだ花壇用に適しておらず、配色や株の膨らみや草丈の伸び具合を今後の植栽に活かすため様々な種類を植え込みました。雑草が1年目にしては想定以上に綺麗に仕上がりと、通院、入院患者さんや病院関係者に好評を得ました。

朝日町は平成25年5月に、ついに高齢化率37%を超え、富山県内では最高率になります。高齢者が多いということは当然のように入院患者、通院患者やその家族の来訪が多くなります。大半の方が不安な気持ちで病院を訪れながらも「ご苦労様」、「綺麗に咲きましたね」と私たちに声を掛けてくださる方々が沢山おいでになります。ボランティア精神を有する人は、活動の結果より人と人とのつながりやふれあいに意義を感じている方が多く、花を通じて病院の訪問者に「心の安らぎ」を提供していけるよう活動を続けたいと思っています。



夏花壇の管理

富山県花総合センター

次長 金森松夫

5月に植えたサルビア等の夏花壇は鮮やかな色彩を演出し、見頃の時期になりました。これから、梅雨そして暑い夏を迎えます。

今回は、厳しい暑さに負けないで咲き続ける夏花壇の管理について解説します。

1. 水やり

花壇の水やりは土の乾き具合をみて、長雨時以外は2～3日に1回水を与えます。特に夏の高温時や晴天が続くような時、あるいは植付け直後は乾燥に注意します。花壇への水やりは必要量が分かりにくいものです。乾燥時の水やりは表面の土が黒く湿るだけでは足りません。灌水したつもりでも表土のみで植物の根の部分には行き届いていないことが多いです。灌水後、差し棒等を表土に突き刺して水の浸透程度を確かめて下さい。

2. 除草

花壇では花苗が旺盛な生育をしますが、同時に雑草も生長します。雑草のはびこりは美観を損ねせつかくの花壇が台なしになります。雑草は根が深く、広く広がるものが多いので小さいうちに抜き取ることが肝要です。少なくとも種が実る前に抜き取りたいものです。

3. 花がら摘み

きれいに咲き誇った花もいずれ見苦しくなります。咲き終わった花はエネルギーを種作りに使い始めます。花は老化の道をたどり、花が咲かなくなるので、種をつけさせないことが大切です。

また、花がらはカビや害虫にとり、大変居心地の良いすみかにもなります。花がら摘みは見苦しくなった花がらの整理だけでなく、傷んだ花卉につくカビや害虫の予防のためにも重要な作業です。

4. 追肥

夏花壇では生長の早い一年草が多いですが、生育の初期からしっかり肥料を与えることが健全な生育につながります。特に生育の長い花（ペゴニア、サルビア等）については、1～2ヶ月に1度株間にN、P、Kの3要素の含んだ化成肥料（例：IB化成 30 g/m²）を施用します。

肥切れを起こし葉色が淡くなった場合は、早めに速効性の化成肥料（例：燐加安S 540 20 g/m²）を施用するか、市販の液肥を指定の濃度に薄めて7～

10日に1回程葉面散布します。

5. 病虫害防除

私達人間と同様に花壇の花達も病気や害虫に侵されます。病虫害対策は予防と早期発見が大切です。病気は予防、害虫は駆除が原則となりますが、その主要な病虫害の防除対策について以下に表示します。

病虫害名	防除対策
うどんこ病	初期のうちにモスダン、トップジンM水和剤等散布
すす病	アブラムシを駆除し、落ち葉は焼却処分
さび病	初期にジマンダイト水和剤、サポール乳剤等散布
炭そ病	初期にジマンダイト水和剤等散布、病葉は焼却
軟腐病	病株は抜き取り焼却処分
アブラムシ	スミチオン、オルトラン、アトマイヤー等薬剤散布
ダニ類	葉裏に水の予防散布、各種のダニ剤散布
ケムシ類	捕殺、幼虫の内にスミチオン、ディップテックス剤等散布
ナメクジ等	捕殺、誘引剤（ナキール等）で誘殺
コガネムシ	捕殺、カルネス等薬剤散布

6. その他の管理

梅雨等の長雨の時期には雨により花の生育が妨げられます。水はけが悪いと土が過湿ぎみになり、根腐れを生じます。溝を作り表面排水を図って下さい。また、雨の跳ね返りを防ぐために、敷き藁等を活用し、雨のダメージを軽減します。

梅雨明けと同時に高温多湿の夏を迎えます。花壇の花も盛夏には生長が鈍ることが多いです。そのため、以下の夏越し対策を進めて下さい。

- ①風通しを良くする。・・・下葉を整理し、葉のムレやカビの発生を防ぐ。
- ②追肥・・・初夏から植物の健康を保つのに良いとされるカリが豊富な肥料を施用しておく。
- ③適切な灌水・・・気温が上昇してからの水やりは植物を傷めますので、早朝か夕方に実施。

花壇の花は毎日その形容を変えます。日頃からこまめに観察し、的確な管理を行い、夏花壇を楽しんで下さい。



「サルビアの夏花壇（エレガガーデン）」

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⑭

ルー

ルーは、ミカン科の常緑多年草で南ヨーロッパ原産のハーブです。ヘンルーダとも呼ばれています。中世ヨーロッパでは、古くから宗教的な行事で用いられてきました。たとえば、カトリックのミサの前に、ルーの枝を使い神聖な水をまいたといわれています。また、葉は、消毒用に床に撒くハーブとしても利用されていました。葉の独特の香りは西洋人には好まれ、お茶や料理に使われているようですが、日本人にはなじみのない香りで、ほとんど利用されていないようです。ここでは、園芸品種として、他の花を引き立たせてくれるルーをご紹介します（写真1）。



写真1 ルー 6月上旬

ルーは、苗を植えた一年目は緑色の茎を持ちますが、2年目以降には、根元の枝が茶色く木質化してきます。5月末から6月初めにレモン色の薄い花びらが4枚開きます（写真2）。花の中央の緑色に膨らんだ部分は実になる部分です。まさに、熟す前のミカンの青い実のようですが、よく見ると、十字に溝が掘られているように見えます。この青い実は花びらをつけたまま、一日ごとに大きくなり、直径1cmほどになります。その後、花びらはカラカラに



写真2 ルーの花

乾いていつの間にか落ちてゆきます。その頃になると、溝はどんどん深くなり、くっきりと十字架を刻印したような姿に変化します。キリスト教の信者がルーを神秘的にとらえていたのは、この実の形からかもしれません。

ルーのもう一つの特徴は、青みがかり丸みをおびた切れ込みのある葉です（写真3）。花のレモン色と葉の青灰色は、それだけでお互いの色を引き立たせる関係です。また、葉は、ナミアゲハの幼虫の食草になっています。実が膨らんで重たくなる頃は、ナミアゲハの幼虫が葉にくっついていての頃なので気をつけなければなりません。一見、鳥の糞のように黒く見えるのが幼虫の最初の姿です。まさか、これがあの美しいアゲハになるとは誰も思いません。最後は、愛嬌のある黄緑色の芋虫に変わります。この頃になると、ルーを眺めるのではなく、幼虫が無事であるかどうか心配でたまらなくなり、毎朝花壇に通うこととなります。葉を食べつくしてしまうほどの大食いではありませんので、あたたかく見守りましょう。

ルーは、日当たりの良い場所を好み、寒さにも乾燥にも良く耐えます。草丈は、60cm程度になりますが、6月中旬の梅雨の頃には、実の重みで茎が暴れてきます。実の付いた茎を20cmほど刈り込みますと落ち着きます。ルーの常緑の茎は、冬の間、雪の重みでペッチャンコにつぶれてしまいます。しかし、雪が消えて暖かくなる頃にはいつの間にか立ち上がっています。その生命力には、毎年励まされます。植えられた場所が気に入れば寿命の長い植物です。花壇では、一年中どっしりと構えて、他の植物を見守っているような存在感があります。



写真3 ルーの葉

庭木に利用する樹種の特徴と管理—ナツツバキ—

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村正史

6月中旬から7月上旬にかけてヤマボウシと花の形は違うものの、白い花を咲かせる高木性の樹木があります。これはナツツバキという樹木で、ツバキの仲間です(写真1)。里山で見ることができますが、庭木としても植栽されていますので、市街地でも見ることができます。

1. 特徴

この樹木は、宮城県以西の本州、四国、九州の山地に自生しています。ツバキというイメージから常緑樹と思われませんが、実はこの仲間では珍しく落葉樹です。花は直径5cmほどで、花卉には繊細なしわがあり、真っ白であるために清楚感があります(写真2)。咲いた花は、その日のうちにポトリと落ちてしまいます。樹皮は成長すると斑紋状にはげ落ち、つややかな灰色を帯びた褐色となり、独特の斑模様となります(写真3)。この肌は、花とともに観賞価値に優れていますので、庭園木として植栽されている要因の1つになっています。

2. 維持管理

この樹木は、半日陰から日向で肥沃な土壌を好みます。しかしながら、乾燥の激しい痩せ地は苦手です。痩せ地に植栽せざるをえない場合には、堆肥や腐葉

土を十分すき込んで、土壌条件をできるだけ、肥沃地にするように心がけてください。この樹木は自然に樹形が整いますので、自然に伸ばすことを基本とし、剪定する場合でも基本の樹形を崩さないようにしてください。翌年の花は8～9月頃に短枝の先端に準備されます。冬期にこの枝を切ってしまうと、花つきが悪くなりますので、注意してください。

ツバキの仲間ですので、チャドクガの被害が心配されます。被害を発見したら、ハサミ等で被害部を切断して、足で潰すなり埋めるなりしてください。その際、幼虫はもちろんのこと、枝や葉にもさわらないように気をつけてください。万が一、この虫に触れた場合には、皮膚がかゆくなりかぶれますので、直ちにお医者さんへ行ってください。たくさん発生した場合には、トレボン乳剤の4000倍液、オルトラン水和剤の1500倍液、スミパイン乳剤の1000～1500倍液等を散布してください。

なお、掲載した写真はすべて富山県中央植物園で撮影したものです。



写真1 ナツツバキ (2010.6.26撮影)



写真2 ナツツバキの花 (2010.6.26撮影)



写真3 ナツツバキの樹皮 (2010.6.26撮影)

【お知らせ】 西村樹木医さんの技術講座のとりまとめを、花と緑の銀行のホームページで公開しています。庭木として楽しむ花木の管理に、是非ご活用下さい。 <http://www.bgty.org/fgbank>



第23回森と花の祭典『みどりの感謝祭』に参加して

花と緑の銀行 射水支店 浅井地方銀行

グリーンキーパー 浅井ひとみ

3月初旬に「日本花の会」より連絡があり、「5月11日開催の『みどりの感謝祭』での特別贈呈者に、過去の「全国花のまちづくりコンクール」で農林水産大臣賞を受賞された方の中から一名を農林水産省に推薦したいと思っています。是非出席願いたい。」とのことでしたので、出席とさせていただきます。

『みどりの感謝祭』は東京都立日比谷公園で午前11時から行われますので、8時45分まで受け付けを済ませました。念入りなりハーサルがあり、いよいよ秋篠宮殿下ご夫妻が来場される時間が迫って来ると、異常な緊張感がたどい始めました。

主催者代表(農林水産省副大臣)挨拶に始まり、名誉総裁・秋篠宮殿下のお言葉があり、身の引き締まる思いで聞いておりました。

苗木と花の特別贈呈が始まった時は、式典会場の重圧感を全身に感じ、私も大変な幸せ者と感激しておりました。苗木については前年度代表の奈良県にちなんで「アラカシ」を、花については「2012日本フラワー・オブ・ザ・イヤー」に輝いたアジサイ「万華鏡」をいただきました。

式典もフィナーレとなり秋篠宮ご夫妻がねぎらいに回られ、私達夫婦の前に来られました。パネルを見ながら、秋篠宮様が「緑が綺麗です

ね。」とおっしゃられ、私は「農村地帯での花壇作りのため、周囲の緑を借景にやさしい色の花壇づくりをしています。家屋の周辺の広い花壇作りのため、主人と二人でやっております。」とお答えしました。「これからも何かめざしておられますか。」と問われ、「今は県の推奨花壇になっております。」と申し上げたところ、不思議なお顔をされたので、「オープンガーデンです。」と申し上げたところ、「オープンガーデンですか。」と納得されたご様子でした。

しばらくすると、紀子様がおいでになり、パネルを指して「これはオブジェですか。」と問われ、「庭を和ませるために流木を入れていきます。」と申し上げますと、「あ…流木ですか。」

「これからも頑張ってください。」とねぎらいの言葉をかけていただきました。宮様との会話は夢の中での語らいのような気がしました。

『みどりの感謝祭』に出席し、お陰様にて生涯忘れることの出来ない素晴らしい体験をさせていただきました。

今後は花と緑の銀行のグリーンキーパーとして、更に活動を深めていきたいと思っています。



〈この人あり〉



花と限らない仲間たち

花と緑の銀行 小矢部支店

菟波地方銀行 頭取 加藤静枝

菟波地区7地区のグループ全33名のグリーンキーパーが、花作りを通して仲間作り、そして地区環境の整備に精を出しております。

この7地区の代表者、自分の地区のグリーンキーパー10名に配布物を配るために村の端から端までまわることは楽しみであり、また、皆さんの庭先を見ながら語り合うことでコミュニケーションをはかりつつ完成度を高めております。

土木作業員の男性、散歩される方、花壇のある道を通る学生たちが私たちの世話する姿や花を見ています。

その中には、「この姿や花を将来、必ず思い出すものだよ!」と言って下さる方もおられ、私たちの励みとなっております。

考えてみれば、私がこのボランティアに携わるきっかけも、幼い頃同じように花を世話していた方々をみていたからかも!?

私たちは、自分たちの育てた花やデザインした花壇をふとした時に思い出してもらえるように、日々の世話や勉強に励んでいます。

サイクリングロードのため、車の通りは少ないのですが、庄川から石動まで毎日サイクリングされる方もおられ、また多くの他地区の方々からの声かけもあります。

今年度、当地区からは2名の方がステップアップ研修に参加しており、実に楽しそうに過ごしておられ、新たな生きがいを見つけたようで、非常に喜ばしいことだと思います。

このような交流やステップアップ研修生として得た知識、仲間たち、そして同級会、もともと花好きばかりが集まっているため、これらは私たちにとって何にも代え難いものとなっております。

これからも、限らない仲間たちと共に、花と緑を通して地域の活性化に努めていきたいと思っています。



表紙写真：「新町制60周年記念花壇」(上市支店)

裏表紙写真：「滝の雫に輝くアズマシロカネソウ 富山市有峰」…写真提供 長谷川幹夫



「滝の雫に輝くアズマシロカネソウ 富山市有峰」



花と緑の銀行だより 188号

発行日 平成25年7月

編集発行 公益財団法人 **花と緑の銀行**

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/>

県民公園頼成の森

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranijyounomori/>

再生紙を使用しています。